IPSJ Magazine

[巻頭コラム]

課題解決を共創プロジェクトで実現していく未来の社会

■留目 真伸

今さら言うまでもなく，近年のテクノロジーの発展には凄まじいものがある．スマホのゲームで AR が一般化し，VR の普及も目の前に迫っている．さまざまな形の決済が実装され，仮想通貨の経済圏も確立されつつある．EV が主流になる日や自動運転もすぐそこだ．ロボット，AI もさまざまな領域での活用が進んでいる．

しかしながら，本当に我々はこれらのテクノロジーの恩恵を十分に受けているだろうか？消費者のレベルで見ると，ほとんどの家庭のリビングルームの風景は，この十年ほとんど変わっていないのではないか．ホームコンピューティングの初期の製品が出始めたのはもう 20 年近くも前のことだが，それらはこんなにも長く普及せずにいる．企業のレベルで見れば，今こそ戦略的投資を行う段階にあるはずだ．しかし実際には多くの企業にとって新規事業開発は永遠のテーマのように語られている．

何か大きなアンバランスを感じないだろうか？　テクノロジーがもの凄い勢いで進展しても消費者の生活の本質に大きな変化はなく，多くの企業はいまだ低成長に苦しんでいる．人間は自分の仕事が AI やロボットに奪われないか憂いているが，一方で解決すべき社会の多くの課題は十分なフォーカスがあたらず解決されないままである．テクノロジーの潜在能力は何かに妨げられ，アンバランスはますます大きくなっているように見える．

結局のところ，何がテクノロジーの普及・実装を妨げているのだろうか？　私にはそれは

■ 留目 真伸
レノボ・ジャパン（株）代表取締役社長

1971 年生まれ．早稲田大学政治経済学部卒．総合商社，戦略コンサルティング等を経て 2006 年レノボ・ジャパンに入社．常務執行役員として戦略・オペレーション・製品事業・営業部門統括を歴任．2011 年から NEC パーソナルコンピュータの取締役を兼任し，NEC との PC 事業統合を成功に導く．2012 年 Lenovo Group 本社戦略部門に全世界の企業統合の統括責任者として赴任．2015 年 4 月より現職．レノボ・グループ Vice President．NEC パーソナルコンピュータ（株）代表取締役執行役員社長．

人間そのものであるように感じられる．1 社の製品やサービスですべてを占有することは不可能である．すべてがつながるのであれば自社の製品・サービスは全体の一部となるわけで，まずは大きく課題を捉え，それを解決していく仕組みの全体像をデザインしなければならない．これまでのように 1 社で，あるいは系列の中でモノを作って提供していく，という発想をやめて，社会や消費者の特定の領域の課題にフォーカスし，各社の製品・サービスをつなぎ合わせて，全体のソリューションをデザインしていくことが必要だ．課題解決ありきのプロジェクト発想からスタートしなければならない．

本来，あらゆる事業は何らかの課題解決である．それがもっとフレキシブルに，スピーディに新結合によって実現されていく，新しい価値創造の仕組みに変わっていくのだ．そこでは，課題を特定し，解決のプロジェクトを創り出していくプロデューサが重要な役割を担っていく．そして，さまざまな形で企業の枠を超えて，プロジェクトに参画していく人が増えていく．社会が求めている，自由な働き方，金銭よりも意味合いやつながりに対してモチベーションを持つ価値観等も，この新しい社会構造の中で満たされていくだろう．

テクノロジーの発展は素晴らしい．それを活かすも活かさないも，結局は人間次第である．素晴らしい未来のために，私たちがどのように行動していくべきか，考えるときに来ている．